道徳科「授業づくりシート」の活用について

「授業づくりシート」では、「考え、議論する道徳」を展開するため、次の三つの学習活動を「授業づくりの視点」としています。

道徳的諸価値についての理解を基に、
視点❶　自己を見つめる
視点❷　物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
視点❸　自己（人間として）の生き方についての考えを深める
※（　）内は中学校

「授業づくりシート」は、右の「授業づくりの手順」に基づいて、シートの各欄に記入をしていくことで、めざす授業のイメージを捉えながら三つの視点を取り入れた授業づくりができるようにしています。

授業づくりの手順

※「道徳科の授業づくりのために～『特別の教科　道徳』（道徳科）実施に向けて～」（平成２８年２月　山口県教育委員会）参照

ねらいは？
指導の内容や教師の指導の意図を明らかにします。
年間指導計画を基に考えます。

指導の重点は？
ねらいに関する児童生徒の実態と、各教科等での指導との関連を検討して、指導の要点を明確にします。

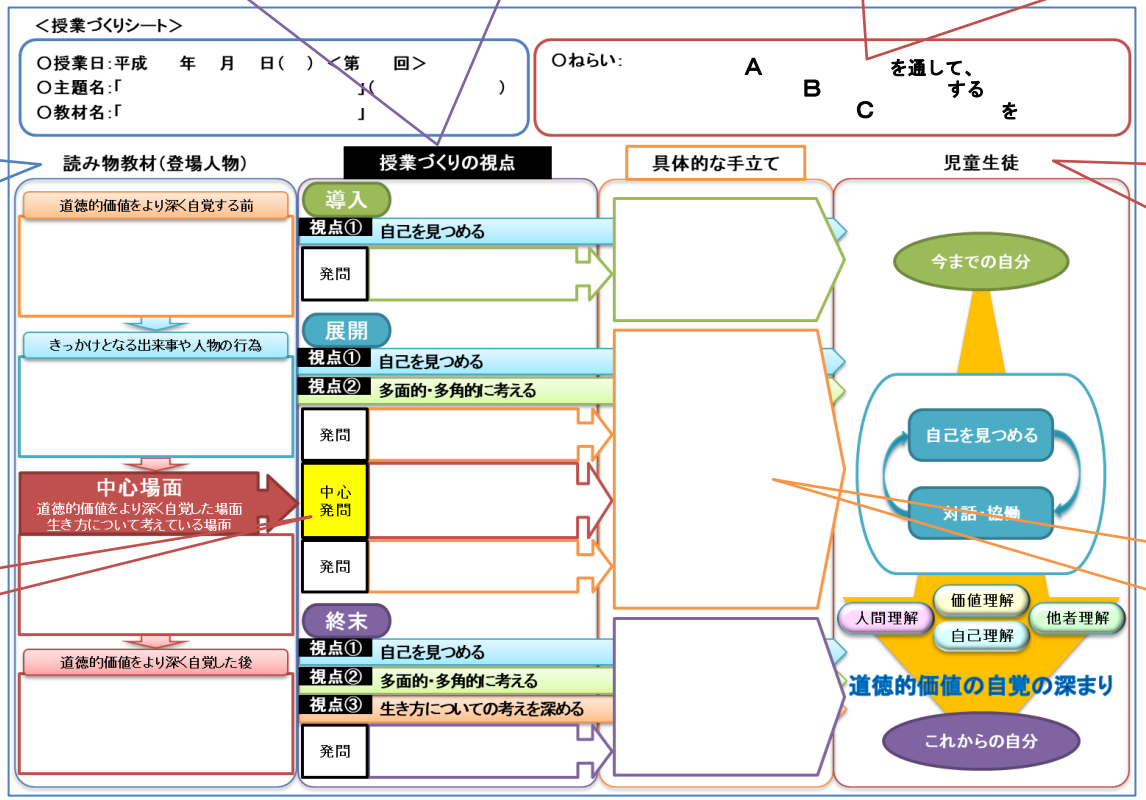
教材は？
児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

学習指導過程は？
ねらい、児童生徒の実態、教材の内容などを基に、授業の展開について考えます。

導入・展開・終末の各段階における学習活動を、「授業づくりの視点」として示しています。
まず、導入では、視点❶により、今までの自分を見つめさせるようにします。次に、展開においては、教材の中心場面において中心発問を設定し、視点❶❷により、議論へとつなぐ対話・協働を促すよう授業を構成していきます。さらに、終末では、視点❶❷❸を意識して振り返りを行い、これからの自分を考えさせるようにします。
導入・展開における「授業づくりの視点」は、必要に応じて付け加えていきます。特に、児童生徒の発達段階に応じて、展開において視点❸を取り入れるようにします。

【ねらいの表記方法】
※Ａ・Ｂ・Ｃの記載について
Ａ：教材の活用部分や活用方法（中心発問関連等）、学習活動等を簡潔に表記します。
Ｂ：「内容項目」やその「指導の要点」等から適切に引き出します。
Ｃ：道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度等を示します。
「育てる、養う、培う、高める、豊かにする」等

一般的な読み物教材では、きっかけとなる出来事や人物の行為を通して、登場人物の道徳的価値の自覚が深まっていく様子が描かれています。この教材の展開を踏まえながら、教材分析を行い、ねらいを達成するために、中心場面とすべき部分を吟味します。



１時間の授業での児童生徒の道徳性の変容や活動を示しています。児童生徒が今までの自分から、これからの自分に向う中で、自己理解とともに道徳的価値の自覚を深めていく過程を表しています。中心となる「自己を見つめる」と「対話・協働」の二つの活動を繰り返すことにより、自覚が深まっていく授業イメージをもって授業づくりを進めていきます。

ねらいを達成するために、中心発問はどのようにするか、中心発問を生かすための発問はどのようにするかを検討します。

効果的な指導方法や具体的な手立てを工夫することが大切です。
＜指導方法の例＞
○読み物教材の登場人物への自我関与中心の学習
○問題解決的な学習
○道徳的行為に関する体験的な学習